

個人店の集合体だから面白い

東京・下北沢で6日、「『個人経営の店』という文化?」と題したシンポジウムが開かれた。セイブ・ザ・下北沢や下北沢商業者協議会などで作る「シモキタ・ボイス2009実行委員会」の主催。服飾雑貨店を含む商店主や近隣住民、アーティストらが多数集ま



東京・下北沢で街の魅力考えるシンポ

り、再開発問題への関心の大きさを印象付けた。

経済学者の松原隆一郎東京大学大学院教授は「多様な個人商店が創意工夫してお客さんを引き付けていることが下北沢の大きな魅力」と分析し、「高収益でなくても暮らしていける人が大勢いる街の方が居心地が良い」と指摘した。

営業存続の署名運動が起きている新宿のビア&カフェ「ベルク」の井野朋也店長は、規制緩和でテナント側を保護してきた法律が変わり、「契約変更に応じなかったので営業を続けられた」と契約の知識の大切さを訴えた。

「シモキタを出て行くかと思ったが、希望の条件に合う物件はまたしてもシモキタだった」と発言する和気さん

を訴えた。

「ロータスカフェ」を運営し、7月に下北沢に新店「農民カフェ」を開いた和気優さんは、中小企業の経営の厳しさを率直に発言した。「必死に頑張る個人店の思いの集合体が下北沢。だから俺たちは自分で道を開く」と宣言すると大きな拍手が起きた。

実行委員長でジャズバー「レイジエーン」を35年経営してきた大木雄高さん（下北沢商業者協議会代表）は、「道路建設はまだ着手されていないが、街は急変している。家賃の高騰で個人商店が追い立てられ、シモキタ固有の良さが失われる危険がある。新政権誕生を機に都市開発のあり方を考え直すべきだ」と強調した。